

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	186人	社会	186人	数学	186人
	理科	187人	英語	187人		

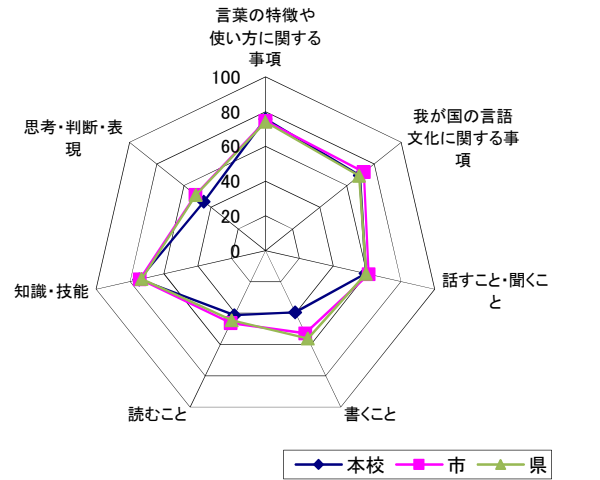
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.8	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	69.4	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	59.3	60.9	59.5
	書くこと	39.5	52.8	56.2
	読むこと	41.3	46.2	44.5
観点	知識・技能	74.5	74.2	73.1
	思考・判断・表現	45.3	51.5	51.2



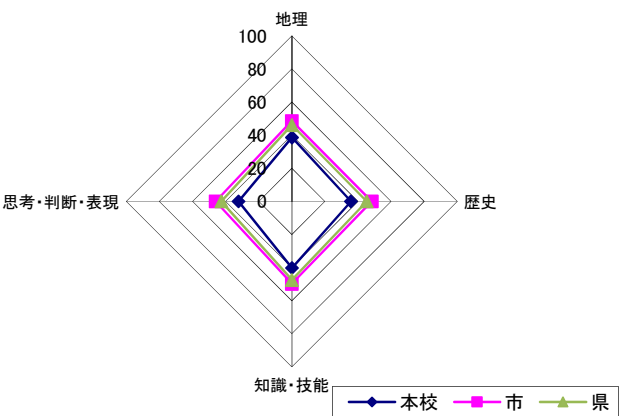
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は、市平均より1.1ポイント、県平均より1.7ポイント上回った。 ○●漢字の読み書きや文法に関する問題の正答率は比較的高いが、漢字の書き取りの問題の中に正答率の低いものが見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りは本校の課題である。漢字テストを実施したり、復習の機会を設けることで、新出漢字のみならず小学校での既習漢字についても定着を図っていく。 ・ひらがなを多用する生徒が多いので、日常の中でも漢字を適切に使用するように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、県平均より0.3ポイント上回ったものの、市平均より3.1ポイント下回った。 ●歴史的仮名遣い及び行書の基礎的な書き方に関する問題は、ともに正答率が低い。	・歴史的仮名遣い及び行書に関しては、教科書において年間を通しての学習がなされにくいため、適宜確認テストを行うことで定着を図る。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均より1.6ポイント、県平均より0.2ポイント下回った。 ○選択肢のある問題では、正答率が高い。 ●条件に従って話合いの結論を書く問題では、無解答率が県や市の平均よりも大幅に高くなっている。	・今後も継続して聞き取りテストを行うとともに、聞き取りメモを取る際に接続表現に留意させ、結論に集約して文章化する指導も併せて行う。
書くこと	正答率は、市平均よりも13.3ポイント、県平均より16.7ポイント下回った。 ●無解答率が高く、市や県の平均を大幅に上回っている。	・書くことに対する苦手意識や抵抗感が大きいと考えられる。メモやセンテンスをヒントに文を作ったり、文型のテンプレートを利用して文を作ったりする活動を、授業の中に取り入れていく。
読むこと	正答率は、市平均より4.9ポイント、県平均より3.2ポイント下回っている。 ○●選択肢のある問題では正答率が高いが、文中から抜き出して書く問題や文の空欄に当てはまる言葉を書く問題では、正答率が大きく下回っている。	・今後も、細部の内容理解にとどまることなく、全体の構成を大きくとらえる指導を継続する。さらに、接続詞で文どうしの関係をとらえたり、的確な表現方法にも注目させたりすることで、より正確な読みへとつなげたい。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	38.7	48.6	46.2
	歴史	35.8	48.3	45.3
観点	知識・技能	40.2	49.8	47.5
	思考・判断・表現	32.2	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

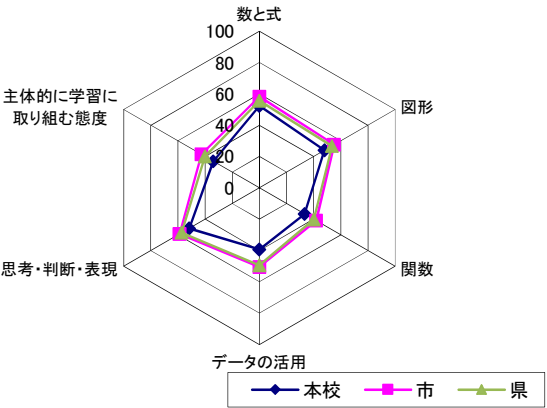
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	・地理的分野は、知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点についても、正答率が県・市の平均を下回っている。 ○国土面積と領海、排他的経済水域に関する問題や、気候の特色に関する問題で正答率が高く、県・市の平均を上回っている。1学年初期の学習内容に対する理解度が高いといえる。 ●全体的に記述式問題に対する正答率が低く、特に資料を読み取り、特徴や変化、課題を記述する問題に関しては、市の平均を大きく下回っている。無解答率も高いことから、今までに見たことのない資料が出てくると、「どうせ読めない」という苦手意識が出てしまうものと考えられる。	・授業においては、教師が基礎的な内容をより重点的に説明したり、授業内容を厳選したりしていくことで、基礎のさらなる定着を図っていく。また、ワークブックなどの問題演習が知識の定着につながっていないことが考えられるので、提出の頻度を高めるとともに、教師がチェックをしっかりと行うことで、物事に丁寧に取り組むよう指導していく。 ・日頃の授業において、深く考える習慣を付けさせていく。話し合い活動においては、着眼点を明確にしたり、根拠もとに話し合わせることで、表面的な活動にとどまらないようにする。また、単元振り返りシートを有効活用し、生徒の記述に対して節ごとに評価やコメントをこまめに行っていくことで、思考力や判断力にとどまらず、表現力を高めさせていく。
歴史	・歴史的分野は、知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点についても、正答率が県・市の平均を下回っている。 ○室町時代に関する問題の正答率が高くなっている。戦国時代に関する生徒の関心の高さが反映された結果といえる。 ●地理的分野と同様、資料の読み取り、変化の内容などに関する記述式問題の正答率が低い。複数の資料の内容を正確に読み取り、それらを組み合わせることで結論を得るというプロセスが未定着であるといえる。	・知識・技能のさらなる定着を図るために、できごとの名称や人物名を単独でとらえるのではなく、大きな流れの中でつかませしていく。そのためには、思考・判断・表現との関連を図っていくことが不可欠であり、ノートや板書内容やワークシート等を工夫していく。また、小学校での学習内容との関連を考慮していくことも、知識の定着・拡充のために有効であると考えられる。 ・歴史的分野においても、より深い思考を促すために、授業等における教師の発問の質を高め、最終的に時代観・歴史観の確立につなげていく。その上で、単元振り返りシートで節ごとの診断的評価を行いながら、単元を貫く問いに対する答えを記述させていくことで、思考力・判断力・表現力を身に付けさせていく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.3	58.2	55.5
	図形	47.9	55.1	53.5
	関数	33.3	41.9	40.2
	データの活用	39.3	50.5	49.4
観点	主体的に学習に取り組む態度	51.8	58.8	57.3
	思考・判断・表現	33.9	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

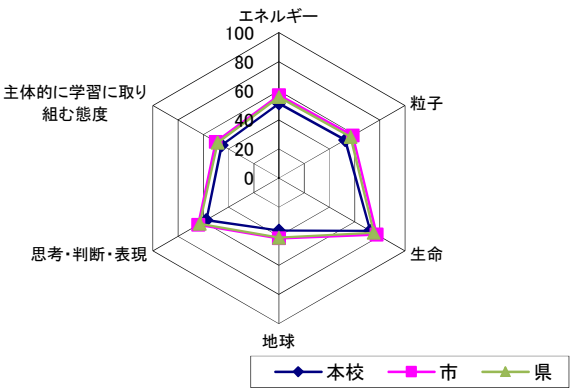
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市よりも5.9ポイント、県よりも3.2ポイント下回っている。 ○移項を必要としない1次方程式の計算問題は、比較的正答率が高い。 ●文章から1次方程式を立てる問題では、正答率が市や県の平均を大きく下回り、無回答も3割を超える。	・計算問題は、授業中だけでなく家庭学習でも取り組ませることで定着を図る。 ・方程式の利用において、「文章から必要な情報を読み取ること」「読み取った情報をもとに立式すること」を中心に授業を展開する。また、類題を与え、繰り返し解くことで定着を図る。
図形	正答率は、市よりも7.2ポイント、県よりも5.6ポイント下回っている。 ○回転移動において回転の中心や角度を求める問題では、正答率が比較的高くなっている。 ●三角形の高さ(垂線)を作図する問題では、正答率が市や県の平均を大幅に下回っている。	・平面図形、空間図形のいずれにおいても、具体物を利用しながら図を把握できるようにする。 ・面積や体積を求める問題は、教科書やワーク等の類題を繰り返し解かせることで定着を図る。
関数	正答率は、市よりも8.6ポイント、県よりも6.9ポイント下回っている。 ●グラフの読み取りから距離を求める問題では、正答率が市や県の平均を大幅に下回っている。	・関数の基礎として、「表をかく・埋める」「式を求める・式で表す」「グラフをかく」ができるように、授業等においても継続的に指導していく。 ・具体的事象をグラフに表現した問題については、グラフのxやy、傾きや切片は何を表しているのかを考えさせていく。
データの活用	正答率は、市よりも11.2ポイント、県よりも10.1ポイント下回っている。 ○ヒストグラムから総度数を求める問題については正答率が高く、おおむね理解ができているといえる。 ●ヒストグラムから累積度数を求める問題は、市の平均を大幅に下回っている。	・代表値の意味や求め方、ヒストグラムや度数分布表のかき方を身に付けさせる。 ・具体的な事象を用いて、データの傾向を読み取る活動を取り入れる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	51.3	57.0	55.7
	粒子	52.5	58.6	56.9
	生命	72.5	77.5	75.2
	地球	36.0	41.4	40.9
観点	#REF!	57.6	64.1	62.8
	思考・判断・表現	45.4	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

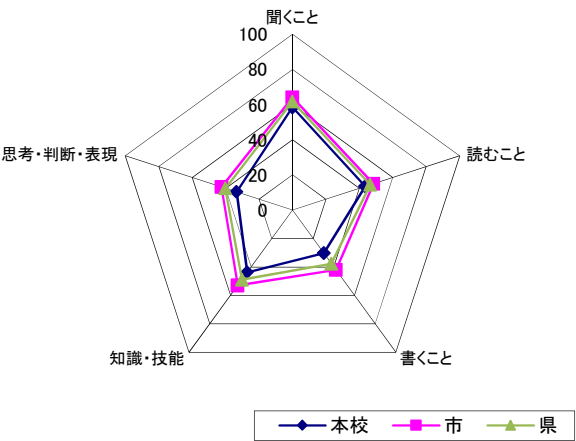
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を5.7ポイント、県の平均を4.4ポイント下回っている。 ○入射角に関する問題の正答率は高く、県と市の平均を上回っている。 ●音の速度から計算で距離を求める問題は、無回答率が高い。 ●ばねの伸びについてグラフから読み取る問題の正答率が低い。	・基礎的な語句について、授業等で繰り返し確認することで定着を図る。 ・音の計算問題を反復して取り組ませ、解き方についてを丁寧に説明する。 ・ばねの伸びに関するグラフを実際に作成したり、ワークやAIドリルを活用したりして理解を深めさせる。
粒子	平均正答率は、市の平均よりも6.1ポイント、県の平均よりも4.4ポイント下回っている。 ○実験を行う際の注意点に関する問題は、正答率が高い。 ●溶解度や気体の性質に関する問題の正答率が低い。	・溶解度については、溶解度曲線の読み取り方について丁寧に説明するとともに、計算問題を反復練習させることで、基礎的な力を身に付けさせる。 ・気体の性質については、実験の際に器具の操作方法や薬品の特徴を丁寧に確認することで、知識の定着を目指す。
生命	平均正答率は、市の平均を5.0ポイント、県の平均を2.7ポイント下回っている。 ○表や図の情報を整理しながら答を導き出す問題は、正答率は高く、無回答率も低い。 ●動植物の名称を答える問題の正答率が低い。	・動植物の名称を授業等でこまめに確認させるとともに、学習内容を自分の言葉で文章にまとめる作業を通して、基礎のさらなる定着を図っていく。 ・動物の分類については、進化の過程についても触れながらまとめさせていく。
地球	平均正答率は、市の平均よりも5.4ポイント、県の平均よりも4.9ポイント下回っている。 ○地層に関して、資料から推測する問題の正答率が高い。 ●地震について、揺れや震度の階級に関する理解を問う問題の正答率は低い。	・柱状図の見方や、初期微動継続時間と距離の関係を理解する問題などをくり返し解かせることで、基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。 ・火成岩や堆積岩などの標本を用いた学習を取り入れることで、岩石に関して興味関心を高める。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.4	64.0	61.6
	読むこと	43.5	48.4	46.6
	書くこと	30.3	42.0	37.8
観点	知識・技能	43.8	52.9	48.9
	思考・判断・表現	33.4	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○聞き取った情報から話の概要を捉える問題では正答率が高く、無回答率も低い。 ●聞き取った情報から自分の意見を書く問題では、無回答率も高い。	・授業中の「Small Talk」において、相手が話したことに対し自分の意見を伝える活動を、今後も継続していく。
読むこと	・正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○日常的な対話について読み取る問題の正答率が高い。 ●対話やグラフといった複数の資料から必要な情報を読み取る問題では、正答率が低く、無回答率も高い。	・単語の定着が不十分なために、文章等の読み取りが困難になっていることが考えられる。新出単語については、単語テストを継続的に行っていくことで、語彙力を身に付けさせる。また、既出の単語についても、授業での生徒とのやり取り等を通してこまめに確認していく。 ・対話文や長文のみではなく、絵やグラフを用いた問題にも取り組ませていく。
書くこと	・正答率は、市や県の平均を下回っている。 ○語順に並びかえる問題の正答率が高い。 ●日常的な話題に対し、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章で書く問題は、正答率が低く、無回答率が高い。	・こちらにおいても、単語の定着を図ることが最も重要であると考え。既習の単語の定着を図る上でも、授業で日常的な話題について自分の意見を書く活動を取り入れていく。また、「Small Talk」では、相手の意見に対して、自分の意見を英文の形で書いて伝える活動を行う。 ・生徒の書いた英文を、教師が丹念に添削していくことで、より正確で適切な文章を書けるよう、継続的に指導していく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○授業においては、「自分の考えを発表する機会が与えられている」や「グループなどでの話し合い活動に自分から進んで参加している」などの肯定的回答が高かった。今後も主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開を意識し、生徒と教師の良好な関係を保ちながら話し合い活動を積極的に取り入れていく。

○●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて不思議だな、なぜだろう」と思う生徒の肯定的回答の割合が比較的高く、授業等を通して、課題を主体的に解決しようとする姿勢が身に付いてきているといえる。今後は、課題を最適な方法で適切に解決しようとするプロセスを重視して指導にあたっていく。

●5教科とも「将来のために必要である」と思っている生徒の割合が高い一方、数学や英語に対する苦手意識をもっている生徒も多い。学習意欲の向上を図る意味でも、今後は基礎・基本の着実な定着を図り、「わかる授業」を意識した指導の工夫や個に応じた支援の工夫など、個別最適化を図れるような指導を推進していく。

●「自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校の宿題をしている」といった質問に関して、生徒の肯定的回答が低かった。学校では、家庭学習の具体的な方法等に関する指導・助言を行うとともに、家庭学習の重要性に気付かせたり、自ら学ぼうとする意欲を向上させたりするような指導も行っていく必要がある。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」「自分には良いところがある」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」の質問に対する肯定的回答が高い。今後も、困難に立ち向かえるような粘り強さ(レジリエンス)や自己肯定感を高められるような指導・助言を継続して行い、成功体験を多く積ませることで、将来の夢や希望をもって生活できるよう支援していく。

○「学校での様子について家族と話している」などの質問に対する生徒の肯定的回答が高く、日頃から家族と良好な人間関係を築いている様子がうかがえる。今後も学校と保護者の情報交換を密にし、連携を図りながら指導にあたっていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	「チャレンジノート」の提出	学力の向上を図り、家庭学習の重要性を自覚させるために「チャレンジノート」を提出させることになっているが、本調査の結果からは、家庭学習の習慣化につながっているとはいえないことが分かる。この根底には、継続的に学習に取り組むことの意義や学ぶ楽しさを実感できていないという事実があると考えられる。問題集を解くことやテスト対策の勉強をすることだけが学習ではない。学ぶとは自分自身を磨くことであり、社会の一員として生きていくために必要であるという自覚がもてれば、学習に対する姿勢が変わり、授業に一層真剣に臨むようになったり、家庭学習にも主体的に取り組めるようになると思われる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着が不十分である。	・基礎・基本に関する教師間の共通理解 ・学習に取り組む上での基礎・基本の定着	・基礎・基本の内容について、各教科ごとに共通理解を図り、小テストを学年内で統一して行う等の工夫をする。 ・授業を受ける上での基本を身に付けさせる。「正しい姿勢で教師や級友の話をしっかり聞く」「プリントはファイルに順番にはさんで整理する」等、生徒の学習に取り組む姿勢に関する指導を各教科で丹念に行う。
・家庭学習への取組が不十分である。	・自ら学ぼうとする意欲の向上	・学ぶことを幅広くとらえ、学ぶことは楽しいという実感をもたせる。家庭学習について、宿題やドリル学習にとどまらず、スポーツや娯楽、ニュースで話題になっていることなど、自らの興味・関心に基づいて追究するような内容を加えていく。 ・学び続ける大人を学級活動や道徳の授業で取り上げたりすることで、進路に対する自覚にともなって、学ぶことの楽しさや崇高さを実感させていく。